

あるってくるぶニュース

NO. 14 00. 01. 14

『あるってくるぶニュース』は、芸術分野の様々な活動とまちづくり運動を自主的に企画、運営、支援する市民のグループで非営利組織の『あるってくるぶ』(Arte club) の活動状況のご報告と今後の予定、他の地域で活動しているグループの情報をお知らせするメディアです。

・・・こんな活動をしています、ご参加ください・・・

どなたでも参加できますが、会員には特典があります

① あるってくるぶギャラリー

—活動のご報告—

◇たべけんぞう展『立体』'99年12月9日～19日
鉄、ステンレス、アルミニウム、イルミネーション、モーターなどをを使った作品が置かれている会場の中で、観客は星屑の海のうえに漂っているようでした。今回の展示で特徴的だったことは、子ども達がとても興味を持ち、すなおに喜んでくれたことです。「これなーに、おかあさん」「うわー、動いてるよ！これ」「クリスマスツリーだよね？」「音が聞こえるよ。あっちでも、こっちでも、いろんなのがねー」



あるってくるぶ 組曲・間奏曲 高橋道弘
水ナラの唄

'99.11.6(土)武川岳登山、11.14(日)9:40～10:10
渓ぞいにいます。キヨロキヨロ。

尾瀬や玉原ではたしかそうだったけど。
妻坂峠の登りから、武川岳山頂まで、
不思議な木の列が続いた。

栗みたいのが2本、他はコナラみたいだが、
里山の峰だと姿が変わらぬのかな。
「谷にいる水ナラが、乾いた尾根にもいたりするかも知
れません！」

そうだったのです、
みんな水ナラの若木の列だったのです。
尾瀬、玉原の沢の老木と、
何と様変わりのたたずまいでしょう。

幹は灰色で、コナラのような山谷ではなく、
ふくらしている。
葉は栗みたい、コナラみたい、実は見なかつた。

美しい灰色の幹の列であった。
何だか分からなかったので、
1本1本、何百本、
じっくり見ながら登ったことだった。

水ナラだった。沢にいるという水ナラが、
山を登つていった。
山頂にナゾの老木が、大きくたたずむ。
さて、ダレでしょう？

—これからスケジュール—

- ◆2000年アルテクラブ企画展 金土日開廊
・三番ギャラリー
- 五嶋 稔展『絵画』 2月11日～20日 12:00～19:00
オープニングパーティー10日(木) 17:30より
飯泉昌宏さんによるギターの演奏があります
- ★作家プロフィール
[個展] '84銀座ギャラリー宙、'85銀座真保画廊、'86埼玉県立近代美術館、'91新宿ギャラリーフレスカ、'92・'94ギャラリー21十葉、'93ギャラリー巷房、'96日本橋東急百貨店、'97日本橋ウインドギャラリー、'97・'99銀座ギャラリーハウス
[その他] '84現代美術の祭典コンクール部門(優秀賞)、'92現代美術選抜展(文化庁)、'85～'99モダンアート展、(91俊英作家賞、'92奨励賞)、グループ展など
- 野口 敏宏展『木彫』 3月17日～26日
- バルーチヤ美知子展『ポタリーペインティング』 4月14日～23日
- 小澤一雄の allegro 展 2000in 川越『カリカチュア』
→ すべては経新聞連載中！ 6月23日～7月2日
- 菅窪賀展『インスタレーション』 7月7日～16日
- 別府 博文展『彫刻』 9月15日～24日
- 本山あかね展『陶器』 10月13日～22日
- 高野 勉展『木版画』 11月17日～26日
- 高松 潤一郎展『絵画』 12月8日～17日

◆お知らせです

第7回 龍のまち鶴ヶ島アートフェスティバル

【会期】平成12年2月6日～13日

【会場】鶴ヶ島市東公民館・0492-86-3357

【応募締切り】1月21日(金) どなたでも応募できます

【問い合わせ】第7回 龍のまち鶴ヶ島

アートフェスティバル実行委員会(鶴ヶ島市教育委員会社会教育課) 0492-71-1111

第1回『ビエンナーレ川越』相原求一朗メモリアル

川越を描く絵画公募展 応募締め切り近づく！

【応募締切り】平成12年3月25日(土)

【問い合わせ】川越を描くビエンナーレ委員会

電話 0492-29-1810(川越商工会議所内)

【入賞作品展示】平成12年5月16日(火)～25日(木)

西武本川越駅ビル5階「ペペ・ホールアトラス」

*審査会場でのアートボランティアも募集します。

あるってくるぶ ワークショップ

—活動のご報告—

■<川越 蔵の会>よりご案内がありました

都幾川村・武藤家「慈眼坊」見学会

集合 1999.12.12(日) pm1:00 JR八高線・明覚駅

参加者 23名

武藤重慶宅（比企郡都幾川村西平）は海拔400mほどの高い山上にあり、近世には本山修驗に属して福聚寺慈眼坊と号した。主屋西に続く觀音堂（茅葺寄棟、住宅風堂 江戸後期）には、「天文5年」（1533）「本願慈眼坊」刻銘を持つ觸口があり、慶応2年觀音免としてご朱印地五石を賜った。（新編武藏國風土記稿）

当日は、うららかな一日で、國學院大學の中山先生による「修驗道の歴史」の講義があり、アルテクルプ会員の福田さんが山伏の装束で現れ、中山先生と山伏問答を実演して下さいました。火渡りを覚悟していたのですが、ほっとしました。その後建物を拝見し、多武峰に走り上がり、晩い秋を堪能して來ました。帰り道は、毛呂の麻原酒造にて「びわのさざなみ・絞りたて原酒」の利き酒をさせて頂き、自然に感謝をさげた一日でした。尚、川越市大袋新田の高橋さんは今回も自転車で参加され、その元気には大いに励まされます。

□今年の建築見学会一日程が決まりしだいお知らせします

岡本太郎美術館見学（担当・塩野）

県立川越女子高校明治記念館見学（以前の作法室）

自由学園明日館見学（現在改裝中です）

設計：フランク・ロイド・ライト

日本工業俱楽部見学（東京駅も）

□今年の自然探訪一日程が決まりしだいお知らせします

奥武蔵にブナの原生林を訪ねて

荒川とトンボ公園・埼玉県寄居あたり（担当・高橋）

越生高取山自然観察会

——越生町緑とせせらぎを守る会に参加

バリ島の農民画家達を訪ねる（担当・小野寺）

□県立公園「越生さくらの郷」計画は当分の間、繰り延べされることになったようです。計画地では県による森林整備作業が緊急雇用対策として始められています。また「越生町・緑とせせらぎを守る会」では、動植物の調査

ボランティアを募集しています。お問い合わせは下記の

事務局 〒350-0415 入間郡越生町上野92 俵木栄一

以上の行動計画は、みなさんの提案により、計画されています。

あるってくるぶ コンサート

—活動のご報告—

♪<たべ けんぞう展オープニングコンサート>

たべさんのオープニングでは、奥様の木俣知のりこさんと息子さんのはぼろさんによるバリ島の民族楽器「グンデル」の演奏がありました。銅製の鍵盤に竹の筒で増幅させるもので、2台の微妙に音程をずらしたグンデルは、たがいに共鳴しウネリを発して、私たちはそこにバリの自然が確かに息づいているのを感じました。

—これからのスケジュール—

□会場担当ボランティアを募集します！

「あるってくるぶ」はボランティアが自主的に参加して、様々な芸術活動やまちづくり運動を支援している会です。そのなかに会員の1人々がギャラリーのオーナーになる日があります。あなたもそんな支援者として、作家と時間を共有し、新しい自分を発見してみませんか？

| | 11日 | 12日 | 13日 |
|---------|-----|-----|-----|
| 12時～ | | | |
| 16時～19時 | | | |
| | 18日 | 19日 | 20日 |
| 12時～ | | | |
| 16時～19時 | | | |

会場担当者は時間が拘束されます。参加された方には薄謝の他、ポイントを差し上げたいと思います。年末のプレゼントをお楽しみに！

*また、その他にも様々な提案をお待ちしています。

参加を希望される方は草野までご連絡下さい。

*1999年度のポイント発表と作品贈呈・12月19日下記

5ポイント以上の方に、昨年アルテクルプギャラリーに寄贈された作品を贈呈しました。その他の方々のポイントは、次年度に繰り越します。尚、ポイントのみを増やしたい方は貢献ポイントとして、アルテクルプの全員より最大の感謝と賛辞をお贈りします。

五十嵐千鶴さん：11／枝川 鏡子さん：9

高橋 道弘さん：5／利根川さよ子さん：5

渡辺由美子さん：5

□今年のまち歩き一日程が決まりましたらお知らせします

恵比寿 まち・アート見て歩き（ビールの季節）

足利 まち・アート見て歩き（桐生有隣館も）

佐倉 美術館めぐり（川村美術館、メタルミュージアム）

本郷 まち再発見・見て歩き（真砂町住宅を考える）

佐原 歴史の町並み見て歩き

（水運のまち、伊能忠敬記念館、小堀屋さんの蕎麦）

月島・佃島 昨日・今日・明日（ビールとレバーフライ）

狭山市 鍋倉街道と東山道を歩く（旅人の井戸を訪ねて）

—これからのスケジュール—

♪<五嶋 稔展 オープニングコンサート>

2月10日（木）夕方5:30から、ギターの飯泉昌宏さんの演奏があります。ジャズ、ロックの要素を大胆にとりいれた独自の方法でピアソラの作品を演奏します。

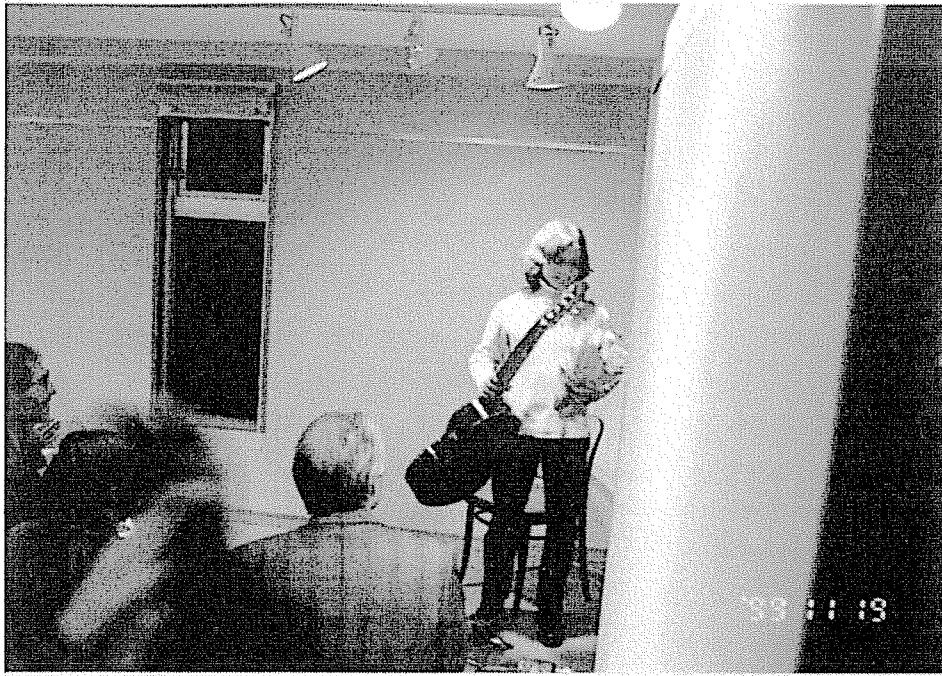
当日は、飯泉昌宏トリオのCD「アストル・ピアソラの音楽」の販売もいたします。

♪<越生里山コンサート> 野外なので、6、7月頃です。

♪<小江戸・人形浄瑠璃> 9月25日（月）

・昨年ギャラリートークでお目にかかる竹本文字久太夫さん達5人がいよいよ登場です。その前に上福岡市勤労福祉センターで、文楽の上演があります。3月12日（日）お問い合わせは、405スタジオ（0492-61-9077）まで

お問い合わせはみなさまの雑用係・草野まで



11月18日 和田 章さんのオープニング
ギターを弾いてくださったのは少女のような
セルヒオ、コロンビアの学生。

(前号で「写真が間にあひませんでした
スミマセン!」)



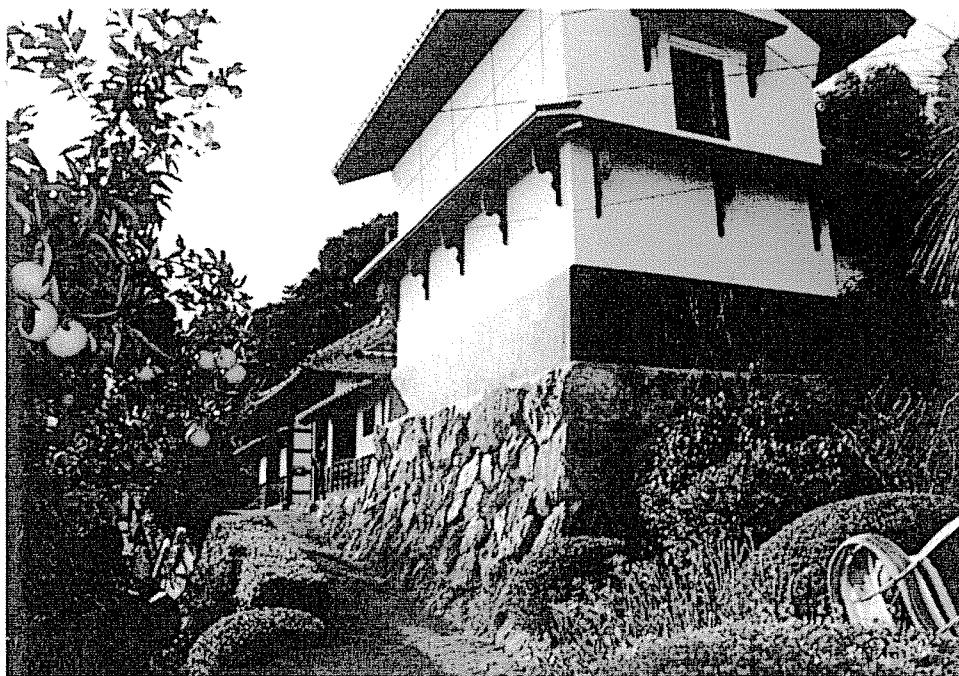
セルヒオのギターは10弦
「武満」は難しいと言っていました。
スペイン語の通訳をかつてでてくださった
宮田さんと。



12月12日(日)
都幾川村・武藤家「慈眼坊」見学会
山伏姿の福田さん中山先生を囲み
武藤さんご一家と。



縁側の日向ぼっこで「修驗道の歴史」の講義を受ける。



陽光を浴びて輝く武藤家の門と蔵



山伏問答を実演している中山先生と
福田さん。

「ヨッ！ナリタヤ！」「新之助！」

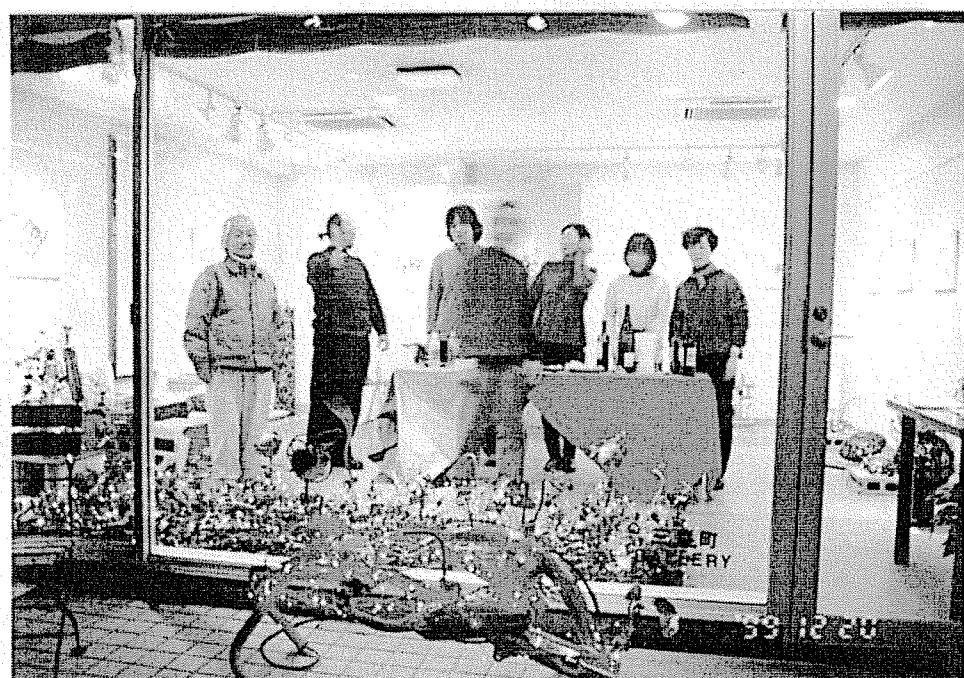
12月9日（木）
たべ けんぞう展オープニングで
グンデルを演奏する木倶知のり子さんと
ほほろさん。



のり子さんとほほろさんを囲み
会話がはずむ会場。



12月19日（日）
星屑の海となったギャラリーで
たべさんと。



彫刻家・小野寺 優元

一昨年3月、いわゆるNPO法が成立して以来、NPOという非営利組織の活動が各方面で活発になっています。この考えは「行政」対「民間」という図式において、一方の「民間」の活動を、利益を追求する企業活動と、非営利のNPO活動（註①）に分けたもので、現代社会の「何でもカネ」といった風潮を補うものだといえます。古来、祭りの開催など宗教的活動や地域の活動は、非営利組織の活動だったのですが、宗教組織が布教という名の拡大思考を強めてカネ集めに走り、地域活動においては、戦後、都市部はもとより地方の農村部においてさえ、地域共同体の枠組みが崩壊したため、いわゆる伝統的NPO活動（註②）は弱体化してしまいました。

このような状況の中、税を財源とすることによる行政の非営利平等の原則や、企業の需要と供給の関係の中にある利潤追求という姿勢には馴染めない活動（註③）が意識されるようになり、ボランティア[自主志願]活動が活発化し、NPO活動は増加傾向を強めています。神戸大震災の災害ボランティアは高く評価され、高齢化社会を目前にひかえ福祉ボランティアに対する期待も高まっていますが、文化活動のように個人の精神的価値観に基づくもの、とりわけアート（註④）は、国家・行政や企業運営に任せせるよりNPOが担うべきだと思われます。しかしながら、NPOは個人の[自主志願]という意識が拡大する社会に存在できるのであって、アートの意味や意義が社会一般の各層から十分に理解され支持されていない現状では、まず行政の手法で立ち上げ、その企画・普及活動を通じボランティアを育成し、支持者を増やしていく途を探るべきでしょう。（註⑤）

東京の世田谷美術館は第3セクターの運営で一定の成果を挙げています。この第3セクターというのは、行政の運営に民間企業の経営手法を導入しているもので、いわば中庸を探っているといえます。その結果利益を出すことも認められ、ミュージアムショップの物販という行為が可能となり、以来全国どこの美術館でもレストランとミュージアムショップが見られるようになったのです。

ここで私は、第3セクターという概念に変更を求め、NPOの自主的市民活動こそを第3のセクターとして位置づけ、「国家・行政」対「民間企業」対「非営利市民組織」という鼎立関係を提案したいと思います。個人の「自主」という財産をNPOに投資してもらい、活力に満ちた、継続的に発展する、責任ある文化活動を展開してもらいたいものです。

今年民間が運営する美術館やギャラリーがいくつも倒れました。バブル期、デパートは「煙突効果」（註⑥）を期待し、企業はステータスシンボルとして美術館を設け話題になりました。もともと美術館は歐州絶対王政の掠奪品を収納する収蔵庫として始まり、市民階級の台頭に伴い、国家財産としての収蔵品を公開・展示、研究・管理という機能を備え、現在では人類全体の文化財を後世へ伝承する責任を負った機関となっています。そのため、一般には美術館と名の付く機関が企画し、収蔵するということは、未来永劫価値として位置づけられ、伝承されるものと理解されています。それを景気が良いとか悪いとかいって美術館を始めたり閉じたりすることの愚は言うまでもありません。

近代から現代にかけて美術館が各地に建設された結果、美術は芸術という名で権威化され、一般の人々の生活とは縁遠くなってしまいました。加えて、これまで美術を支えてきた評論家、ギャラリーオーナー、ジャーナリストといった人々の活動にこのところ迫力が感じられません。西洋美術の輸入業者から脱皮できない評論家、大学教授や館長のイスに響くためか過激な発言を避ける美術関係者、売れ筋の作家しか扱わず新人の発掘などしようとしているギャラリー、大御所から順に取り上げることしかしない新聞、このような傾向は美術界の随所に見られます。

新しい時代を迎えた今、アートと市民の乖離を憂える声は増大し、アートを社会へ浸透させる試みも見られますが、功を奏したものは見当たりません。21世紀のアートの拠点をイメージしたとき、美術界にある様々な枠組みを取り外し、NPOを立ち上げ「自主」というパワーを結集して、アートを社会の活動の源として活用すべきではないでしょうか。人間の活動を、税の徴収と施策、代金を介在させた需要と供給といった関係の中だけに留めておこうとした結果が、抨議的傾向を社会に充満させてしまいました。心理学の分析に待つまでもなく、人間の自己達成欲は究極の願望であり、文化創造の原動力といえるのです。

国立美術館の独立行政法人が検討される中、民間の美術館も一企業の収益に大きく左右される体質のため、公共意識が欠如し、助成金依存運営を強いられるなど、各地の美術館経営は大きな岐路にさしかかっています。21世紀のアート拠点がターゲットとして狙うべきは「何気なくふと立ち寄る人」です。そのためには、従来の収蔵・展示という機能に加え、情報交流、コンビニエンス（註⑦）、アミューズメント（註⑧）等の機能を複合し、地域との関連を密接にしていかねばなりません。

たとえば、郷土資料館、ボランティアやトラスト運動の拠点、フリーマーケットや音楽イベントの開催、工芸館、工房の設置、そこを利用してのアーティスト・イン・レジデンス（註⑨）や彫刻シンポジウム（註⑩）の開催など、他のジャンルとも共同して、アーティストと市民の交流の場を提供すべきです。さらに運営面では、昨今各地に建設された多目的ホールのような、すべて中途半端でどの専門の用にも足りない施設ではなく、感性の優れた人材をプロデューサーに仰ぎ、NPOの運営により、そこへ来なければ満たされず、何度も訪れたくなるようなアートの拠点を目指し運営されるべきでしょう。

21世紀のアート拠点は、権威主義の衣は身につけず、質の高いアート作品が放つ作家のメッセージやオーラを、おしゃれな雰囲気で楽しめるような場です。そして、アートは単なる精神の覚醒や心の癒しとしての役割を果たすだけでなく、多種多様な価値観を提供し、文明の前途に立ちはだかる壁を打破する力を人類に与えてくれるはずです。21世紀という新しい時代は、多種多様な価値が共存する社会[Mani—Value・society]（註⑪）の中で、「自主」というパワーを發揮しながらアートを楽しみたいものです。

- 註① 非営利性は必ずしも無償を意味せず、利益を会員へ配分しないことを言うのであり、営利より社会的使命を優先させることである。それは、組織としての継続性を保ち、責任を担えるという意味が重要といえる。
- 註② これには個人の自主志願という意味はなく、地域社会が個人を呪縛したものであり、現代のNPO活動とは大きく異なる。
- 註③ 特定非営利活動とは、保健、医療、福祉、社会教育、まちづくり、文化、芸術、スポーツ、環境保全、災害救援、地域安全、人権擁護、平和推進、国際協力、男女平等、子どもの育成、等の分野の活動。
- 註④ ここでは、明治政府が導入し、学校教育を通じて普及した西洋美術を美術という言葉で代表させ、コンテンポラリー・アートやパブリックアートといわれるものをアートという言葉で表現し区別したい。
- 註⑤ 埼玉県立美術館が今年、完全無償のアートボランティアを30人の定員で募集したところ、300名を超える応募があり、アートに対する関心が潜在的に高まっているのを感じる。
- 註⑥ デパートの最上階に美術館を設け、ここを訪れた人が帰途、階下の売り場で買い物をしてもらおうと期待すること。
- 註⑦ いわゆるコンビニは若者を中心に現代人の生活に深く浸透してしまった。これに眉をひそめるだけでなく、最近話題のマツモトキヨシの店舗設計コンセプトなど、大いに研究しアート拠点のあり方に反映させるべきだ。
- 註⑧ 後世に伝わる20世紀後半の東京を代表するものは「夢の島のゴミ」と「ディズニーランド」かもしれない。ディズニーランドのコンセプトの中には、国内のみならず東南アジア各国の若者達に何度も行ってみたいと思わせる不思議な魅力がある。日本のアニメーションやそこから生み出されたキャラクターは世界の子ども達に支持されている。
- 註⑨ 海外や他の地域からやってくるアーティストに、制作と生活の場を提供し、滞在制作してもらうもの。作家はボランティアの支援を受けながら市民と交流し、アートの理解は作品鑑賞だけの展覧会に比べ、数段深まる。日本以外の世界の主な都市には、必ずアーティストのためのレジデンス施設があり、その都市のボランティアの人々がサポートしてくれる。日本人作家もこれを利用させてもらっているのに、なぜか日本にはA・I・Rがなく、整備を急がねばならない。
- 註⑩ 海外や各地から数人の作家を1ヵ所に集め、公開制作しながら、地域のボランティアや市民と交流する。作家には若干の制作費が支払われ、作品は地域に設置されることが多い。
- 註⑪ 価値を意味するValueという単語に、manyを意味するmaniという接頭語を組み合わせてつくった造語。多様な価値を共存させるという意味を象徴する語として使った。